

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市国見児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人ワーカーズコープ	
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・ 令和3年度 15,233人（前年度比 113.7%） ・ 令和2年度 13,394人 ・ 令和元年度 18,596人	
	《事業》 ・ 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 26,395千円 (25,476千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート、地域懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行による利用情報の提供、外国人が多い地域性を踏まえた翻訳機器の用意等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。さらに子どもの意見を大切にし、子ども会議をもうけて子ども自身が生活や遊びのルールを決めるよう支援するなど自主性や社会性を育てている。また、乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	18/18

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人ワーカーズコープ）による自己評価》
<p>【児童健全育成事業】</p> <p>「地域の一員である」という自覚を育む活動は困難を極めた。仙台市ボランティアセンター主催の「夏のボランティア体験」受入れは、唯一の健全育成事業。それも道半ばで中止を余儀なくされたが、短期間で36名の中高生を受け入れることができた。</p> <p>【子育て家庭支援事業】</p> <p>感染症拡大予防に注視し、新規の利用者を呼び込むか、リピーターを増やすかを念頭に置き、昨年の事業をさらにバージョンアップする形で行った。コロナ禍での運動不足解消を目的に幼児クラブは体験&運動を強化。“忍者学校”・“畑で野菜作り”を行った。お母さんたちのストレス解消は、“楽しむ”をキーワードに自由参加の“a. so. bo!!”から幼児クラブや“ほっこりんぐ”へ参加したくなるようなプログラムの構築を心掛け、お子様の名前を早く憶えること、どのイベントに参加しているかを把握することで児童館に来ても寂しく感じることはないように、適度に声掛けをし、また足を向けてもらえるように工夫をした。</p> <p>【地域交流推進事業】</p> <p>八幡商店会とは2年目のお付き合い。昨年同様七夕飾りとハロウィンでお世話になった。国見地区福祉活動報告会で出会った3団体と児童館でヒアリングを実施、意見交換と4団体でコラボイベントを実施することを確約できた。仙台市立錦ヶ丘中学校からフードバンク仙台へ食品の寄贈の依頼を受け、そのお礼にフォトレターを作成し、卒業・入学の祝詞を贈呈することができた。</p> <p>【放課後児童健全育成事業】</p> <p>子ども達の主体性を受け止め、活かしながら守り、認め、深め、成長しあい、たくさんの出会いを大切に心掛けた。地域の方のご厚意で廃棄寸前の枝豆でずんだ白玉、夏休みにはハラル食やアレルギー対策としてアレルギーフリーのカレーパーティを実施した。貝ヶ森児童館主催の「ベタタンク交流戦」では2チーム中1チームが第3位に輝いた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に係るまん延防止重点措置や宮城県・仙台市緊急事態宣言、宮城県緊急特別措置などの発令があったが、児童クラブに関しては、年間を通して受け入れを行った。この間、小学生や乳幼児親子の自由来館などは一部休止していたが、解除後も小学生の自由来館は土曜日のみ、乳幼児親子は平日午前のみと制限のある再開となった。年間を通して、感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力をしながらの児童館運営だった。</p> <p>児童健全育成事業においては、小学生対象で「ふわりんクラフト」が月毎にテーマを決めて行われミニプラネタリウムなど、造形遊びを通して子ども達の興味関心を広げ豊かな感性を育てている。中学性の居場所作りの取り組みとして「スタディールーム」を時間で設定した他、近隣の中学校や高校にアンケートを依頼しニーズ把握に努めた。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、登録制の「おれんじくらぶ」で工作活動、運動遊び、季節の行事などを通して集団遊びの体験の場を提供している。この活動から参加者同士の交流が生まれ、館行事と一緒に参加するなど来館者のリピーターにつながっている。また、自由来館の取り組みで「ちびっこプレイランド a・so・bo!」はたくさんの遊具で自由に遊べる特別な設定で乳幼児親子が気軽に参加できるように配慮している。</p> <p>地域交流推進事業においては、近隣の大学の学生の実学臨床教育の場としての受け入れや八幡商店会主催の七夕飾りへの参加など地域の方や関係団体との交流に努めている。また、フードバンク仙台と連携して児童館に「フードBOX」を設置しSDGsの取り組みを継続して行われている中で、他地域の中学校とフードバンクを通じた新たな交流が始まった。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、校庭や近隣の公園での野外遊びを通して異学年が関わりながら主体的に活動できるよう支援が行われている。秋休みには「チームワークだ！Go！Go！チャレンジ!!」が開催され集団活動を通して社会性や主体性を育てている。</p>	S

四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課